



森川雨琴 推選

氣負わぬ細線で楽に書きあげて心地良い。筆毛が立ち紙面をとらえており、渴筆が美しく表出され音楽を奏でる。良寛を思ひおこさせる世界観に魅了された。

芳賀 瑯 月 推選

うに書き始められ、下部は中心を揃えしつかりと支えている。潤渴の妙を見せられた。まさに渴筆での動きある線が効果をあげた佳作。

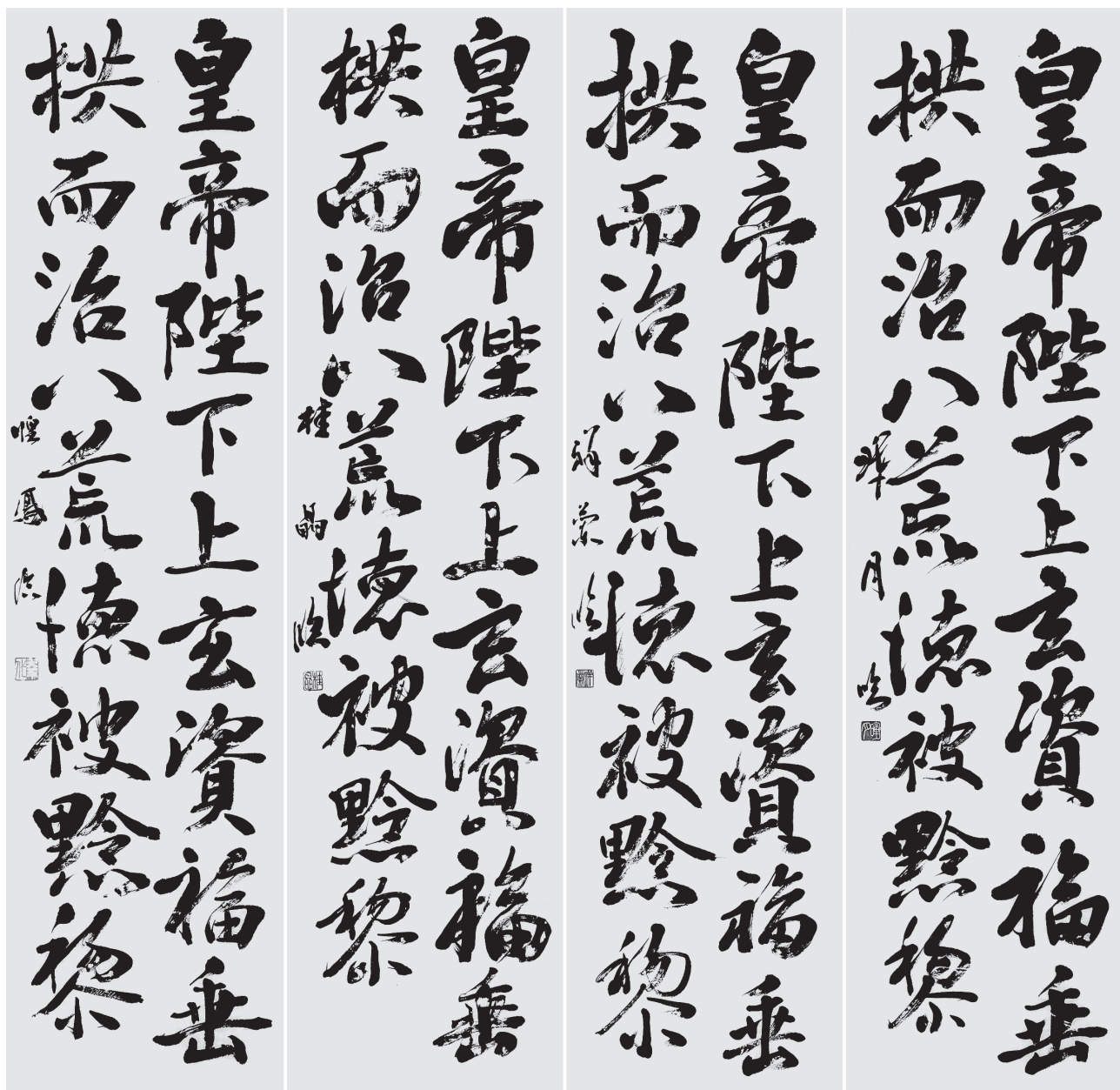
須藤青海 推選

滲まない線に書かれている
運筆の遅速の変化によって
線の表情を表現する。ゆっ
くり書く所の墨溜まりが濃
い部分となり効果をあげる。
力みのない爽快な作品だ。

青木榮俊 推選

中に時折ズバツと引かれた線に目を奪われる。水仙の黒に対する「や」の旋回線。又、「障」の太い横画には筆者の強い意志を感じる。

加藤有鄰先生選評



鈴木暉月 推薦
原帖を良く理解し、遠くより筆を導き優雅に、伸びやかさと強さをよく表現されています。落筆も高く、線に厚みを加えています。

三ヶ尻 祥蘭 推薦
筆を柔らかく握り、適度に線の強さを織り交ぜて品格高い作品としました。余白が美しく全体を響かせています。落款上手し。

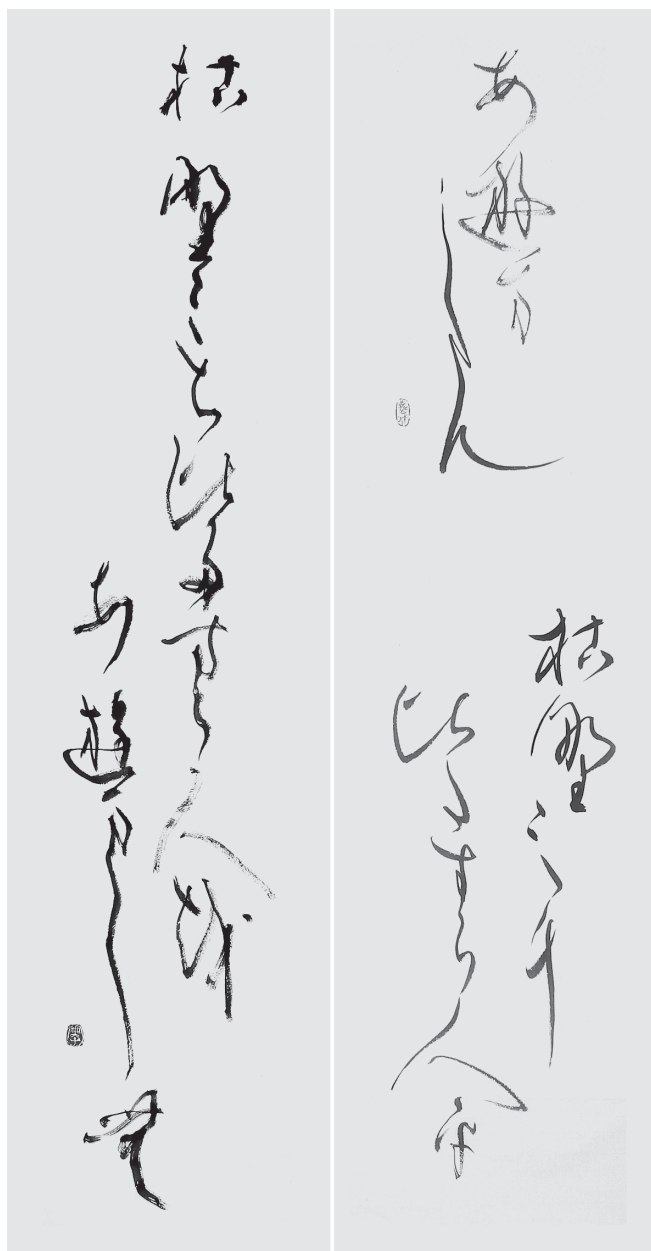
堀 桂晶 推薦
墨量豊かに堂々としており、線に余裕と自信が窺える作品です。渴筆部も柔らかに運筆しており、日頃の研鑽の成果が現れた。示偏、字書引き直して再確認しよう。

加藤 煌凰 推薦
穏やかで緩かに線運びながら、減張のある線を用いて雅趣溢れる作としました。形体も美しく、熟練の成果がでています。

吉澤真理先生選評



露崎桂子先生選評



時岡寿代 推選
軽やかで迷いのない伸びやかな運筆に思わず引き込まれました。潤滑の変化にも爽やかさを感じます。流れる様な運筆は魅力的ですが、もう少し強さが欲しい。

木村典子 推選
参考作品を自分なりに、すっきりと纏めました。練度の高い線質で趣深い作ですが、墨色の変化をもう少し自然に。最後の文字を少し軽くすると更に佳に。

大澤あや 師範
迷いのない筆致でリズムに乗り清く澄んだ筆線が流麗に流れ明るく美しい作となりました。雅印があると更に作品が映えると思います。

井出翠風 師範
原帖の奔放さをうまく捉え力強く堂々の作。特に潤筆部の潤いのある豊かな筆線と墨色の推移は見事で上級者の風格を感じます。

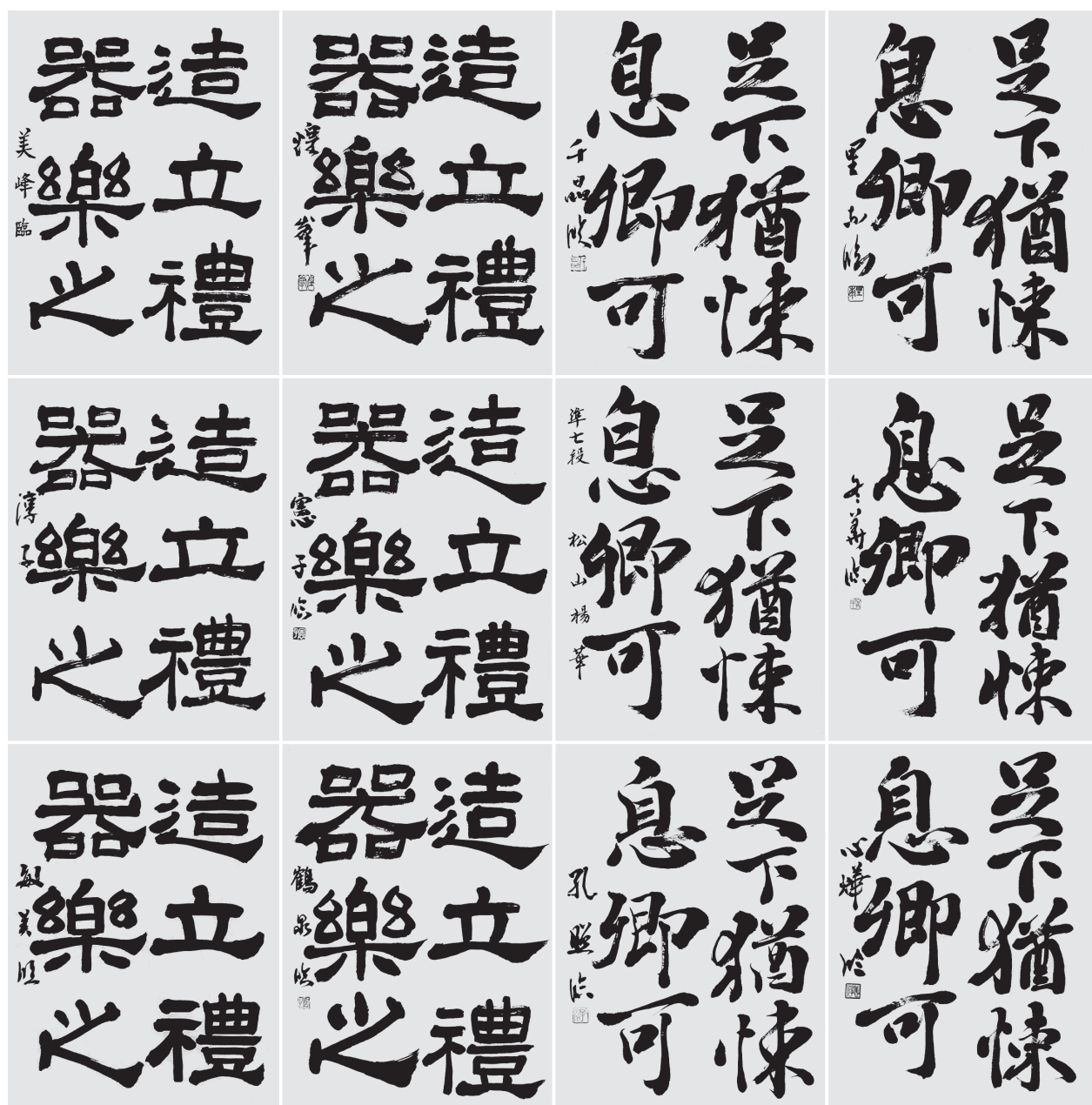
関村吟香 八段
上下運動の効いた伸びやかな書線が躍動し充実感に溢れています。潤筆部に厚みを持たせすぎて少々重くなりました。

柿崎三津子 六段
全体小粒ながら最後まで気力が貫通しすっきりと仕上がりました。細線部分に圧が足りず弱くなりましたが繊細な筆致で品格を感じます。

林溪舟 準師
丁寧な運筆で呼吸が深く味わい深い。抑揚の変化を加えて、紙へのくい込みが増すと、並んだ「」の濃淡の呼応が更に際立つでしょう。

木内英子 準五
運腕大きくダイナミックで重量感ある作となりました。弾力ある筆線は安定感があり大らかです。この方も雅印がなく残念です。

赤富士北祭先生選評



安藤美峰 準八
原帖を見たときの清澄な趣をよく捉えている。文字をやや扁平にし、余白の白が響く美しい作品となった。落款は本文に合うように工夫したい。

神戸煌峰 師範
やや粘りを含んだ用筆で、直線を利かせながら礼器碑に迫った作。「亡」やや大きいのが、心境の高さが伺え充実したものになった。

村上千晶 八段
柔豪筆を、大きな運腕で空間を切るように自在に運筆。緩急の変化が明快でその動きにハツとさせられます。大切な落款も手慣れている作です。

白澤里奈 師範
筆の握りが柔らかく、しっとりとした潤いのある線に王羲之の表現として納得させられる。時折見せる意志的な動き、線の躍動美にも優れた作。

宮本淳子 準八
形態の捉え方もよく安定感がある。波磔でリズムに乗れながら、作品に統一感を持たせた明快な作。この作も押印があればと惜しまれる。

今井憲子 師範
手本をよく観察しながら、丁寧な運腕に好印象を持つ。波磔に入る前筆をやや手前に傾けると、キリッとした風趣が加わると思う。

松山楊華 準七
穂先を利かせながらも、おろからで落ち着きがある用筆が紙面を大きく見せている。転折の滑らかさ、呼吸の長さもあり見事な作です。

小林冬華 師範
浮沈の変化をとりながら、粘りのある線を加え情感の籠った線の表現は魅力的。紙面に食い込んだ筆鋒の動きに、長年の研鑽が感じられます。

渋谷敏美 準八
あたたかみがある線で、しかも原帖の凛とした空気を捉えた豊かな作。波磔に統一感ある作品作りは流石ですが、角度が上がり過ぎらしい。

神田鶴泉 八段
筆の弾力を効かせてリズムののった運筆がこの作品の根底にある。遠勢による運筆の余裕が、礼器碑の線の切れ味、伸びやかに繋がついている。

宮尾孔照 準五
長鋒筆を用いて課題に取り組むことは至難の業。しかし骨格がしっかりしており、筆の柔らかさに流されてはいない。精気溢れる意欲的な作。

松原心輝 準師
リズムののった書かれており、織りなす筆鋒の筆遣いにより作品の深さを増している。軽快で、清澄な線が原帖の雰囲気につづいています。